

e-黒板活用実践事例

執筆者情報

石巻市立蛇田小学校
教務主任
大西 守

1. 実践授業の概要

1.1 学校名

宮城県石巻市立蛇田小学校

日付

平成 17 年 1 月 28 日 (金)

対象学年

5 年

教科

算数科

単元

百分率とグラフ 11 / 13 時間



【主体的な学習を支援】

1.2 実践授業の目的

効果的な e-黒板活用の在り方を実践を通して明らかにする。

1.3 実践授業で活用したコンテンツ

- ・パイオニア製学校教育用 50 V 型プラズマ電子ボード EPD-C504
- ・PDA-S06CBS ユーティリティソフトウェア CB-Link SV
- ・東京書籍 新しい算数 デジタル掛図 5 年
- ・エプソンスキャナー GT7200U

2. 実践でわかったこと

2.1 IT 活用の効果について

導入時において e-黒板を活用し、帯グラフ及び円グラフの読み取りの確認を行った。非常にきれいなグラフでしかも大きく提示できたので、前時の復習から本時の導入にスムーズに結びつけられた。児童の興味・関心も高めることができた。

展開時では、最初に e-黒板で帯グラフを書く手順を説明した。書くポイントを大きくしたり、ペンでマークを付けたりすることによって、児童は書く手順や留意点を把握しやすくなった。

e-黒板に示された手順にそって児童は A4 サイズのワークシートにグラフを書き込んでいった。2, 3 人の児童が書いたワークシートをスキャナーでコンピュータに取り込み、e-黒板で児童が説明をした。e-黒板を使うことによって、児童は発表用に大きなグラフを書く必要がなく、説明するときもポイントを大きく映し出すことができたので、効果的な説明ができた。

まとめの段階では、『東京書籍 新しい算数 デジタル掛図 5 年』を e-黒板に映し、グラフができる手順をシミュレーションすることにより、本時のまとめをスムーズに行うことができた。

全体を通じて、e-黒板を活用することにより、あらかじめ提示しておきたい画像や図を用意しておくことができるので、授業の進行が非常にスムーズになった。

2.2 実施した授業における狙いと評価（評価の 4 観点に ， ， ，無印をつける。）

(1) 実践前の狙い

関心・意欲・態度 () 思考・判断 () 技能・表現 () 知識・理解 ()

(2) 実践後の評価

関心・意欲・態度 () 思考・判断 () 技能・表現 () 知識・理解 ()

2.3 課題について

e-黒板は、非常に映像がきれいで、コンピュータとの連携もとれるため、まさにマルチメディアの特性を活用できるが、50 インチ型とはいえまだ小さいと感じた。せめて従来の黒板の半分でもあればより容易に活用できると思われる。

今回の授業では、効果的な e-黒板の活用ということが主目的であったため、グラフを描く手順まで e-黒板で提示した。しかし、グラフを書く手順は、プリント等で児童の手元にあった方が効果的であったという

反省がなされた。何もかも e-黒板で示すのではなく、e-黒板の特性を的確に捉えて、効果的な活用方法を吟味する必要があった。

今回、児童が実際に e-黒板を使って、プレゼンテーションをするような児童参加型の授業形態もねらっていたのだが、スキャナーに取り込むのに手間取り、十分な成果をあげることはできなかった。また、e-黒板を貸与されたのは、12月中旬であり、児童が e-黒板に習熟する時間がとれなかった。児童参加型の授業を行うためには、ある程度児童に e-黒板の扱いに慣れさせておく必要がある。

e-黒板の使い方は非常に簡単で、少し練習すれば、誰でも操作できるようになるが、それに接続するスキャナー等他の情報機器との連携を実現するには、ある程度の情報機器の扱いに関するスキルが必要になる。まだ、すべての教師がそれら情報機器を接続するスキルは十分に持ち合わせていない。その面での教師の研修が必要であると思われる。



【教室環境の一部である e-黒板】